

【映像遺産の保存と活用】

# 映画俳優志村喬の肖像

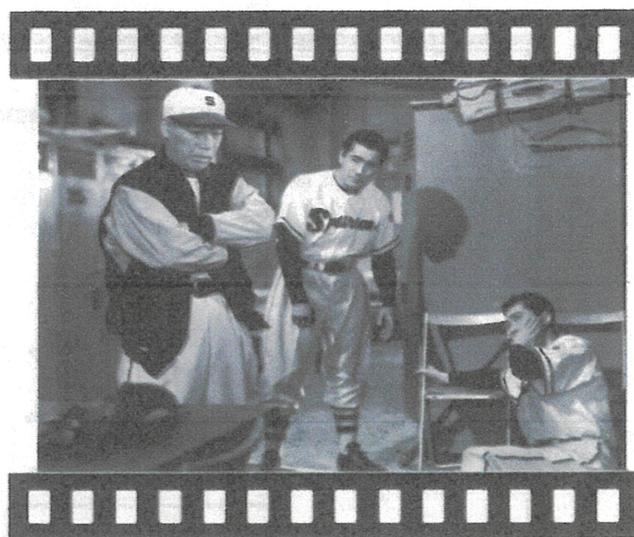
～《黒澤映画の名優》を超えて

国立映画アーカイブは、俳優志村喬が遺した膨大な生涯資料を所蔵しています。本講座は、その一端をご紹介しますながら志村喬の俳優人生を概観します。本作品は、野球に全人生を捧げた男と、その男を取り巻く家族や仲間を描いています。

☆☆上映作品☆☆

◇『男ありて』/109分/35mm

(1955/監督:丸山誠治/脚本:菊島隆三)



志村喬『男ありて』(1955年、丸山誠治監督)より

日時： 令和8年2月13日(金)  
午後1時30分～4時まで  
(開場・受付 午後1時10分から)

会場： 国立映画アーカイブ  
相模原分館  
(中央区高根3-1-4)

※裏面地図参照

講師： 岡田 秀則氏  
(国立映画アーカイブ主任研究員)

受講料： 無料

対象： 相模原市在住か在勤、在学の方

定員： 200名(申込順)

申込み： 令和8年1月21日(水)～2月11日(水)

・市コールセンターにて受付  
(受付時間 午前8時～午後9時)

電話：042-770-7777

問合せ先

相模原市生涯学習センター

住所：相模原市中央区中央3-12-10

電話：042-756-3443



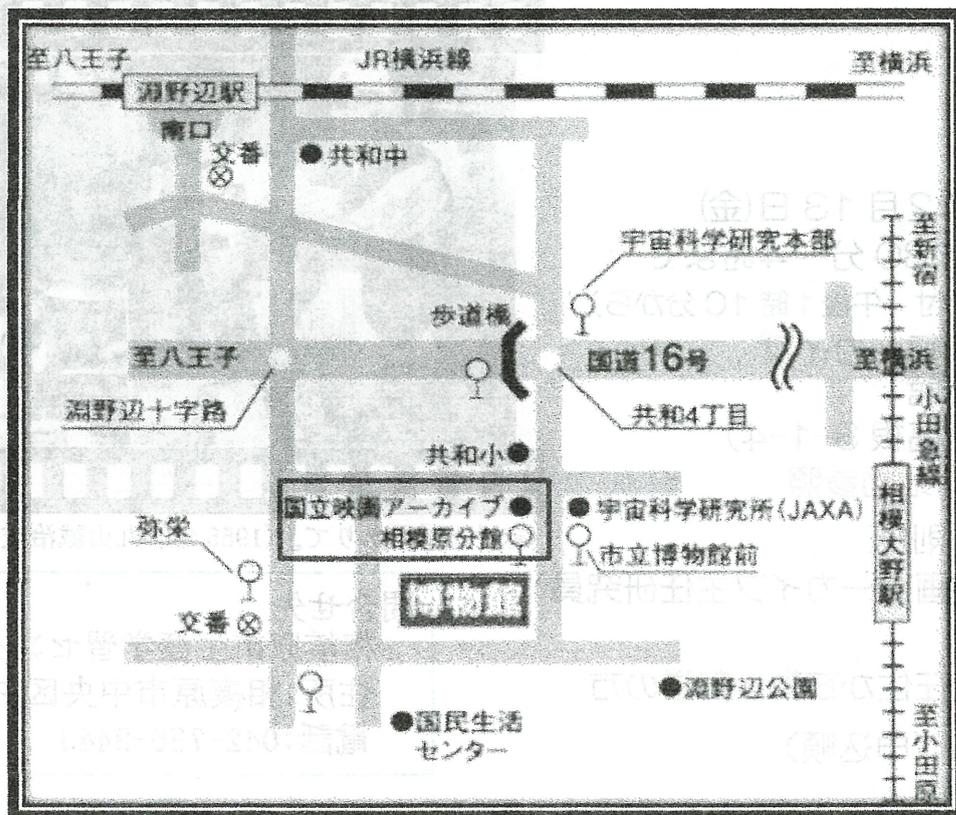
## ☆ アーカイブからのご紹介

◎ 志村 喬(1905~1982)

志村喬は、『生きる』(1952年)や『七人の侍』(1954年)など黒澤明監督全30作品のうち21本に出演し、世界の映画ファンにその名演を印象付けてきた俳優です。しかし、400本以上のフィルムに出演した志村の経歴は、黒澤映画にとどまりません。

1934年に新興キネマ京都撮影所に入社した志村は、1937年の日活移籍以降は芸達者な時代劇の脇役として認められ、やがて1943年の東宝入社が黒澤との出会いとなりました。『酔いどれ天使』(1948年)からは、三船敏郎とともに黒澤作品の看板となり、同時に様々なスタジオで、二枚目でも三枚目でもない、人間味と朴訥さ、そして風格を備えた演技者として活躍を続けます。

## 会場アクセス



※当施設には駐車場はございませんので、車・バイクでの来場はご遠慮ください。  
自転車の駐輪場がございます。